

歴史と文化が息づく都市なんこく

南国市は、戦国時代の一時期まで本県における政治、経済の中心として栄え、貫之船出の港・大湊の公園や紀貫之邸跡など、ロマンあふれる歴史遺産が豊富に残る「土佐のまほろば」です。



＼48代目国司、紀貫之邸跡／

古今集の庭

古今集の選者も努めた王朝屈指の歌人、紀貫之は、第48代土佐国司として赴任しました。貫之が京への帰路についたのは、4年間の任期を終えた承平4年(934年)12月でした。その船旅を女性の日記体で書いた「土佐日記」には、ユーモラスな土佐の人々が登場します。

紀貫之(イメージ画)
872~945年頃



土佐日記の碑



国府の碑

国の史跡／
比江廃寺塔跡



A4
土佐国衙跡



比江廃寺伽藍の想像図

Feature

The History and Culture of Nankoku City

Up until sometime during the Sengoku period, Nankoku City flourished as the prefecture's political and economic heart, and the "Great and Splendid Land of Tosa" retains many examples of historical heritage filled with the spirit of adventure, including the port from which Ki no Tsurayuki's ship departed, Ominato Park, and the remains of Ki no Tsurayuki's residence.



A5
岡豊城跡



A5
久礼田城跡

＼土佐を代表する戦国武将／

長宗我部元親(1539~1599年)

戦国時代、宗部郷(岡豊付近)の長宗我部国親の長男として生まれた元親は、永禄3年(1560年)、21代目の当主となります。

天正3年(1575年)には土佐を平定し、元親の居城のあった岡豊は土佐の政治の中心となります。天正13年(1585年)には四国をほぼ平定しましたが、豊臣秀吉に敗れ、土佐一国の領主に納められました。やがて城は現在の高知市へ。元親は1587年に長宗我部検地を始め、1597年には「百箇条の掟」を発布しました。また、仏教や儒学、南学にも精通した教養人で、国分寺金堂(国分)を再建するなど、神社への加護厚い武将としても知られます。



長宗我部元親飛翔の像

坂本家ゆかりの地 [才谷]

坂本家は元々質屋、酒造業、呉服商を営む豪商才谷屋の分家で、第六代・直益の時に長男・直海が藩から郷士御用人に召し出されて坂本家を興しました。



坂本家初代 太郎五郎の墓

才谷龍馬公園

